

第 3 回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

| | | |
|------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 開催日時 | 平成 29 年 7 月 11 日(火) 13:30～16:30 | |
| 開催場所 | 薩摩川内市役所 103 会議室 | |
| 出席者 | 委員 | 外菌会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員、白男川委員 |
| | 事務局 | 行政改革推進課長、同課職員 |
| | 傍聴者 | なし |

□ 会次第

| 開会 | 主管課・室 |
|-----------------------------|--------|
| 1 開会 | |
| 2 補助金等評価 | |
| (1) 1号認定子ども多子世帯実費負担軽減事業費補助金 | 子育て支援課 |
| (2) 地域型保育事業連携施設受入事業費補助金 | 子育て支援課 |
| (3) 保育所地域活動事業補助金 | 子育て支援課 |
| (4) 障害児保育事業補助金 | 子育て支援課 |
| (5) 母子寡婦福祉会運営補助金 | 子育て支援課 |
| (6) 歯科医院休日当番事業補助金 | 市民健康課 |
| 3 閉会 | |

□ 議事

1 開会

○ 会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 1号認定子ども多子世帯実費負担軽減事業費補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 保育園の待機児童はどれくらいいるのか。

●主管課 国の基準によると待機児童は4月1日現在、7名である。しかしながら、特定の園を希望していて入れない待機児童は54名いる。子供は減少しているが女性の社会参加が増加しており、保育園の需

要は増加傾向にある。今後も待機児童解消に向け努力していきたい。

○委員 給食の補助を受けている児童数を毎月把握しているのか。

●主管課 市で毎月人数を把握している。

○会長 他の自治体はどのように対応しているか。

●主管課 他の自治体にはこのような補助制度はないと認識している。保育料等を市町村で独自に設定できる制度は平成27年度から始まった。保育園とのバランスを勘案し、保護者が実費負担として園に支払う給食費を補助する薩摩川内市独自の制

度である。参考までに、保育料は給食費を除いた額で比較すると薩摩川内市は県内では高い方である。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 補助金交付要領を改正し、補助金の効果を指標を用いて測定するよう要望したい。
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(2) 地域型保育事業連携施設受入事業費補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員** 上限66万円を無理に使わないといけないという意識はないか。
- 主管課** 0～2歳児を保育する地域型保育事業連携施設受入事業は、本市において需要が多い。保育士の増、子供の相談等への補助として有効に使われていると考えている。
- 委員** 事業を実施している事業所は現在5箇所。あと2箇所増やすための考え方は。
- 主管課** 市内に7箇所ある認可外の保育所からの移行が必要である。うち病院が3箇所企業主導型認可事業所であるので市を直接通すのではなく、全国に600～700箇所ある。
- 委員** 補助金の視点別評価の中で、事業者間との連携、支援がスムーズにいくように指導する必要があったとあるが具体的にはどうということか。
- 主管課** 新しく0～2歳の小規模保育園

を作ったので最初のうちはなかなかスムーズにいかなかったという意味である。現在は解決している。

- 委員** 平成29年度の当初予算額が396万円で当初からの3倍となっている。理由は。
- 主管課** 新しく小規模保育園が作られている状況にあり、29年度の見込みで当初予算計上した。
- 委員** 66万円は直接雇った方に支払われるのか。
- 主管課** 職員人件費相当分と考えている。臨時的な人件費で1日5,500円、月10日出勤の見込みで計上している。実績報告はいただいております、定額となっている。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 事業実施事業所数の目標値が成果指標なのに疑問がある。成果指標に他のものを盛り込めないか。
- 事務局** 補助金交付要領に効果の測定が明記されていない。現在、所管課で要領改正について、検討中とのことである。
- 委員** 要領を改正し、よりよい成果指標を設定するよう要望したい。
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(3) 保育所地域活動事業補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員** 28年度から29年度にかけ予算額が増えた理由は。
- 主管課** 見込み増を当初予算計上したた

めである。

- 委員 予算上では増やすのに、なぜ、「縮小」するとの評価なのか。
- 主管課 現在、所管課内で30年度から「世代間交流等及び育児講座・育児と仕事両立支援事業」メニューの20万円を廃止し、縮小する検討を行っている。
- 会長 世代間交流を自主運営させる方針か。
- 主管課 お見込のとおりである。子育て分野は補助の額が膨らんでおり、事業の選択と集中に取り組んでいる。
- 委員 小学校低学年児童の一時預かりの場として、放課後児童クラブでは見えてくれないのか。
- 主管課 放課後児童クラブがない所が対象である。ニーズもある。
- 会長 補助基準額20万の世代間交流等及び育児講座・育児と仕事両立支援事業及び50万の小学校低学年児童の受入れの内容は。また、妥当な金額か。
- 主管課 世代間交流等及び育児講座・育児と仕事両立支援事業は講演会相当分で、小学校低学年児童の受入れは人件費相当分である。両事業とも妥当な金額である。
- 委員 世代間交流で地域のお年寄りとふれあう良い機会である。補助を継続すべきでは。他の事業で補完できると考えているのか。
- 主管課 補助金がなくても実施可能と考えている。今後の動向を注視していきたい。
- 委員 保育所の先生方に対しての教育を充実させてほしい。
- 会長 市からの補助金が重複していないか。
- 事務局 重複はない。

(まとめ)

- 会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価で

よろしいか。

- 委員 異議なし
- 会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「縮小」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 委員 要領を改正し、よりよい成果指標を設定するよう要望したい。
- 会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(4) 障害児保育事業補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員 健常者と同程度の保育を実施するためには保育士が必要か。
- 主管課 安心して保育ができる環境をつくるためには、専門の保育士が必要である。保育園25箇所のうち11施設、計23人障害児を受け入れている。正職員を雇用するのは難しく、臨時職員で専門的知識がある方を雇用し、対応している。
- 委員 障害がどんなに重くても補助金は同じ金額か。
- 主管課 お見込のとおりである。
- 委員 障害児が何名いる施設に何名補助をつけないといけないといった決まりはあるのか。
- 主管課 特にない。
- 会長 国や県からの補助制度はないのか。
- 主管課 今のところはない。情報収集していきたい。

(まとめ)

- 会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし

○委員 障害の程度で補助金を交付することはできないか検討されたい。

○委員 前回の評価と同様、補助金が充当されている保育士の人員配置について、人員配置が適切になるよう障害の程度を勘案しながら保育人員の配置基準を検討されたい。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(5) 母子寡婦福祉会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 会の主旨は、母子及び寡婦の悩みを解消し、存立させることにある。したがって、行政としては支えていくべきである。しかしながら、会の活動において補助の効果が見えない。

○委員 成果指標にある会員数の維持は無理ではないか。会のあり方を考え直す時期に来ている。これまでの実績を活かして、今後切実な問題になる一人暮らし高齢者向けの活動に軸足を移しはてどうか。

●主管課 会員の中には寡婦や男性も含んでおり、若い方も入会している。市が決定することではない。

○委員 収支精算書の支出の欄に支部活動費とあるが、支部がいくつあり、どのような活動を行っているのか。

●主管課 川内、樋脇、入来、東郷の4支部があり、同会と同じような活動をそれぞれの地域で行っている。

○委員 各支部でどのような活動を行っているのか確認したい。

●主管課 各支部の総会資料が手元にないので、後日提供したい。(後日提供済み)

○委員 どこの市町村にもあるものなのかわからないが、寡婦会の活動に公金が投入されていたことを初めて知った。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・

妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○委員 前回の評価と同様、補助をすることでの行政の目的が明確でない。会のあり方を見直すべき。

○会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(6) 歯科医院休日当番事業補助金(書類審査)

(事前質問)

○委員 休日当番歯科医院の数は。

●事務局 28年度は31院で実施した。2日ないし3日開院で2日では4万6千円、3日では6万9千円程度歯科医師会から報償費が支払われている。

○委員 基準単価の1万円は妥当な金額か。

●事務局 市としては基準単価の4割程度を支払っている。他市とも比較して妥当ではないかと考えている。

○委員 28年度の来院患者数は。

●事務局 73日を輪番で回し、来院患者数は276名だった。傾向としては、2日開院で0~10名、3日開院で8~26名が来院している。

○委員 前回評価の中で、他の自治体住民が受診した場合、薩摩川内市が負担していることになるのでいかがなものかという意見が出ていたが、その後の対応は。

●事務局 市としては医師会と協議しているが、効果的な方向性は見出せていない状況である。理由としては、他の自治体の住民が来た場合、診察を拒否することは難しいと考えている。

○委員 主管課の考え方を了解した。これらより課題は、コンビニ受診が増加していること等ではないか。

○委員 病院の休日当番医院に対する補助も行っているのか。また、行っている場合は補助額はどれくらいか。

●事務局 病院の休日当番も輪番で実施している。補助額は2医師会に対して約3千万円超支払っている。市としては、歯科医師会同様、協力いただいている立場にある。

(まとめ)

○会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

○会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○委員 異議なし

3 閉会

○事務局

(挨拶)